

理学療法分科会主催

第2回研修会

平成21年11月8日、四條畷学園大学同窓会理学療法分科会主催第2回研修会が、四條畷学園大学リハビリテーション学舎にて開催されました。

講師に畿央大学大学院健康科学研究科神経リハビリテーション学研究室の森岡周先生をお迎えし、「神経科学の発展に基づいたリハビリテーションの展開」というテーマでご講義頂きました。



今回の研修会では卒業生だけでなく勤務先 講師：森岡 周 先生（畿央大学大学院）

の先生方、在校生の大学4年生が参加され、脳科学の知識に違いがある中で、理解しやすいように基礎的な知識から、機器の発展により、脳機能を仮視化できるようになった事による最先端の知見まで幅広い内容を講義頂きました。

身体は、脳が外界を知覚する受容器であり、その経験によって脳が学習していくこと。麻痺や慢性痛は、脳が学習することによって起こっている可能性があること、脳は一つ一つの筋を細かく制御しているのではなく、粗大的に制御し、フィードバックとフィードフォワードを用いてプログラムを修正している可能性があることなど120分という講義時間がとても短く感じるほど興味深い内容でした。

今回、講義の初めに先生が言われた「疑問を残しておくことは生理的に悪い。」という言葉に肝に銘じ、臨床において「なぜ」と疑問に思うこと、疑問を解決できるようにさまざまなアプローチを試みる事が大切であると感じ、幅広い知識、考え方を身に付けるために情報収集も大切にしていきたいと思えます。

講義の後には、ランチョンセミナー形式で卒業生代表による施設紹介、活動紹介が行われました。青年海外協力隊に行かれている方や老人保健施設、総合病院、クリニック、スポーツリハなど多岐にわたる分野での活動報告があり、在校生の方にとっては、今後の参考になったのではないかと思います。

最後になりましたが、今回、ご講演いただいた森岡先生はじめ、研修会の企画、運営をしてくださった諸先生方に厚く御礼申し上げます。

四條畷学園大学同窓会 理学療法分科会 会誌担当